楡苑

岡田大岬（昭和45年卒）

北大法学部同窓会報
第42号
2026年
7月22日発行

北海道大学 法学部
School of Law
Hokkaido University

さっぽろ雪まつり　　2026年2月7日 大通西7丁目



表紙の写真

「２０２６さっぽろ雪まつり」大通西７丁目・ＨＢＣ広場には、北海道大学創基１５０周年を迎える記念メモリアルとして「古河講堂」をモチーフとした大雪像が造られました。

広場にはプレハブの展示ブースも設けられ、北大オリジナルグッズや産学連携で作られた菓子類、ジャーキーなどが販売され、石油ストーブの暖をとりながら展示やビデオ放映を目にする方も多く、寒さから逃れることが出来ますので好評を得ていました。

古河講堂は、１９０６年古河家の社会貢献のための施設整備の寄附により、１９０９年11月に竣工し林学教室として使用されました。１９９７年には国の登録有形文化財に指定されています。

雪まつり会場では、陸上自衛隊北部方面システム通信群が雪で再現しました。

大雪像は夜が綺麗と言われるので２月７日の夜、氷点下の気温の中で撮影しました。



2026年、北海道大学は創基150周年を迎えます。

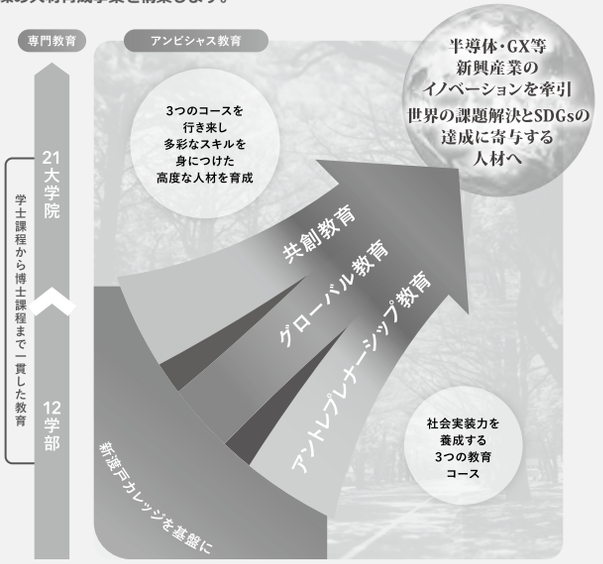
多様な人材が持続的に新たな価値を生むキャンパスへの転換に向けた「人と人を、時を、緑を、夢を、実を、結ぶ」をキーコンセプトとする古河講堂の改修・利活用事業や、未来社会を創造する人材育成事業「Innovation Front Runner」など、次の150年を見据えた記念事業のため、2023～2026年度の4年間、北大フロンティア基金は「創基150周年記念募金」として、皆様からのご寄附を募集しております。

Extension 年間1.5億円×10年▶総事業費15億円［支援規模は毎年600名を想定］

1．人材育成事業「イノベーション・フロントランナー」の育成

「学びを、キャンパスから外へ、地域社会や世界のフィールドへ広げる」をコンセプトに、もっと学びたい、研究したい、視野を広げたいと願う学生を支援します。

北海道のフィールドを活用し、自身の専門知識と社会の課題を結びつける共創教育や、新渡戸カレッジを中心としたグローバル教育、そして早い時期からのアントレプレナーシップ教育などを通じ、学生の探究意欲や進学意欲を一層引き出すために、学部・大学院一環の人材育成事業を構築します。

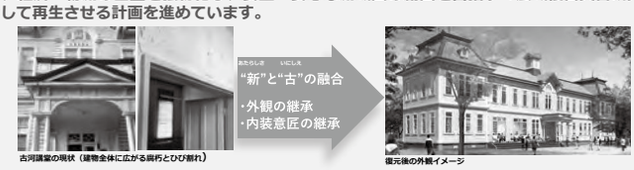


Extension 総事業費10億円

2．古河講堂の改修・利活用事業

本学は、1906年（明治39）年に古河家から施設整備費の寄附を受け、教育設備が充実したことにより、前身の札幌農学校から大学に昇格した歴史があります。

本事業ではこの歴史的建造物を単なる保存の対象とするのではなく、北海道の農林水産業、暮らし、経済・物流の基盤を強靭化し、安全・安心な流域圏の創出を目指す「広域複合災害研究拠点」として再生させる計画を進めています。



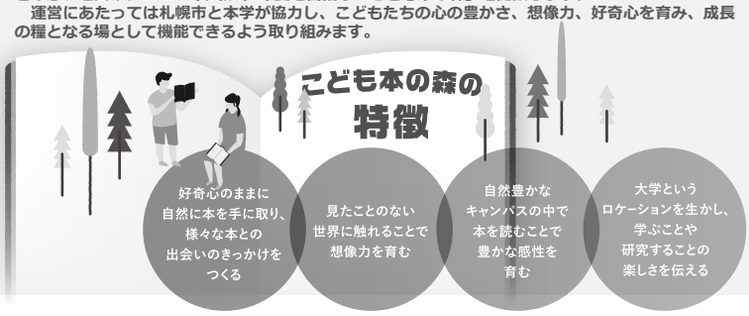
古河講堂の現状（建物全体に広がる崩朽とひび割れ）
復元後の外観イメージ

Extension 総事業費５億円

3．「こども本の森」事業

世界的建築家の安藤忠雄氏が自治体へ寄贈されている「こども本の森」を、本学構内に建築するとの提案をいただきました。安藤氏の「『ボーイズ・ビー・アンビシャス』という精神がある北海道大学はシンボリックな場所。日本だけではなく、世界に飛び立つこどもたちが一人でも出てくれれば」との想いを受け、2026（令和8）年夏を目指し「こども本の森」を開設します。

運営にあたっては札幌市と本学が協力し、こどもたちの心の豊かさ、想像力、好奇心を育み、成長の糧となる場として機能できるよう取り組みます。



寄附方法　北大フロンティア基金ウェブサイトの「寄附をする」から、ご寄附方法（クレジットカード決済、郵便振替・銀行振込、コンビニ決済、PaPay決済）を選択のうえ、お手続きください。

URL ▶ https://www.hokudai.ac.jp/fund/

個人の方▶

法人・団体の方▶

クレジットカード決済により、継続寄附（毎月・年2回・年1回いずれかの引落し）をご利用いただけます。
また、お申込み時に会員登録いただくと登録内容の修正・解約などがインターネットで随時行えます。

お問い合わせ先
北海道大学広報課卒業生・基金室
〒060－0809　札幌市北区北９条西６丁目　北海道大学百年記念会館内
TEL 011-706-2017　FAX 011-706-2010
E-mail kikin@jimu.hokudai.ac.jp

「楡苑」第四二号の発行に寄せて

北大法学部同窓会長
藤田　美津夫



前回の「楡苑」の発行から早くも一年が経過しました。

この間、本同窓会では、昨年九月に定時総会と会員懇親会を開催したほか、令和八年三月の卒業式の日に併せて、優秀な成績で法学部を卒業した学生二名及び課外活動で顕著な実績を残したグループに「法学部同窓会賞」を授与しました。

また、三月から五月にかけて法学部・法学研究科の卒業生・修了生や新入生及びその保護者の方々に対し、同窓会費の納入と同窓会事業への参加を要請する活動を行いました。七月には役員会を開催し、本同窓会の事業内容や財務について議論することにしております。

さらに、昨年春頃から新たな会員名簿の発行に向けた作業を進めており、今年九月下旬には２０２６年版会員名簿が完成し、会員の皆さまにお届けすることができる見込みです。

今年の五月の連休中に、東京から遊びに来ていた孫たちに北大のキャンパスを案内する機会がありました。正門前で写真を撮った後、図書館と古河講堂の前を歩いてクラーク博士像まで行き、北大と博士との関係について話して聞かせました。構内には散策を楽しむ人や、ランニングをする人がおり、それにかなりの数の観光客が訪れていました。旧昆虫養蚕学教室と旧農学部図書館の美しい建物の前を通り、農学部の建物を見て、クラーク像のところへ戻り、そこから中央ローンに降りてみました。まだ雪が残っていましたが、湿った土の臭いがして、草が芽吹いており、いよいよ春が来たという感を強くしました。

せっかく北大を案内するのだから、札幌農学校当時の建物も見てもらおうと思い、第二農場まで移動しました。そして、孫たちと一緒に牛舎、模範家畜房、穀物庫・収穫室・脱穀室の順に中に入って展示物を見て回りました。米国風建築物の威容と展示された農業機械の数々を見ると、札幌農学校が北海道の農業の発展のために果たした役割の大きさや当時の教育者たちの熱意が伝わってきます。これらの建物が立ち並ぶエリアの景観は本当に素晴らしいものであり、北大の中で私の最も好きな場所の一つです。ここでスケッチしたものを基に、下手な油絵を描いて事務室に飾ったりしています。

それにしても、北大が世界に誇る化学反応創生やワクチン開発、低温科学など最先端の研究が行われる施設のすぐそばに、札幌農学校当時の建築物群がいまも整然と保存されていることに改めて驚かされます。

今年の五月下旬に私の所属するある学会の定期大会が北大で開催されたことから、会場となったクラーク会館に久しぶりに出かけてみました。会館の様子は私が学生だった頃と少しも変わっておらず、研究発表が行われた講堂の客席に座ってみると、法学部生であった当時、ここで友人たちと模擬裁判を行った時のことがありありと思い出されました。

その時に作成して、来場者に配付した模擬裁判のパンフレットが今も残っています。改めてそれを読み返してみると、訴訟手続についての勉強不足による誤りが随所にあって、赤面の至りではありますが、私にとっては、青春時代の一コマを記すものとして、大切な記録となっています。

本同窓会は、今後とも会員の皆さまのご意見・ご要望を受け止め、会の発展と会員の親睦を深めるため、役員一同、一層の努力を重ねて参る所存ですので、ご支援とご協力をお願いいたします。

大箸法律事務所
弁護士　大箸　信之
（平成14年度卒（学部）・平成16年度卒（院））
〒070－0036 旭川市六条通八丁目三十七番地二十二
68ビル四階
電　話（〇一六六）七三－四八九三
ＦＡＸ（〇一六六）七三－四八九四

佐藤信孝法律事務所
弁護士　佐藤　信孝
（北大ＬＳ卒）
〒060－0024 北海道北見市北四条東三丁目
ＡＩＧ北見ビル四階
電　話（〇一五七）五七－五二二二
ＦＡＸ（〇一五七）五七－五二二三

ご挨拶

北大法学研究科長・法学部長
曽野 裕夫



令和8年4月1日付で法学研究科長・法学部長を拝命した曽野裕夫です。どうぞよろしくお願いいたします。はじめに簡単な自己紹介をさせていただきます。

私も北大法学部の卒業生です。昭和58年4月に北海道大学文Ⅲ系へ入学し、昭和62年3月に法学部を卒業しました。入学以来、北大ＥＳＳ（英語研究会）に所属し活動していました。卒業後は、北大大学院法学研究科の修士課程と博士課程に進学し、藤岡康宏先生のご指導を受けて民法を勉強しました。その後、金沢大学法学部、九州大学法学部で助教授を務めたのち、平成16年4月に、北海道大学大学院法学研究科教授として札幌に戻ってきました。

授業は、民法と国際取引法を担当しています。最近のゼミでは、国際取引や海外業務を目指す学生の支援育成を目指し、平成二十一年度から海外で開催される模擬国際商事仲裁大会に出場しており、それに関連して開催される日本大会では、学生たちが優勝や準優勝の優れた成績を残しています。

札幌農学校に起源をもつ北海道大学は本年創基１５０周年を迎えます。北海道大学は、「フロンティア精神」、「国際性の涵養」、「全人教育」、「実学の重視」という4つの基本理念を建学の精神として発展してきましたが、今後は、Ｓｕｓｔａｉｎａｂｉｌｉｔｙ（１５０年先の未来を守るために）、Ｉｎｎｏｖａｔｉｏｎ（世界の課題解決に向けて）、Ｄｉｖｅｒｓｉｔｙ（多様性にひらかれた教育・研究の場）の3つのテーマを一体として推進することで、より明るい社会の実現を目指します。そのために、北海道大学は、卓越した世界的研究能力（Ｅｘｃｅｌｌｅｎｃｅ）と地域に密着した課題解決のための社会への拡張力（Ｅｘｔｅｎｓｉｏｎ）を融合した大学を目指します。

北大法学部、研究大学院、法科大学院においても、北大の4つの基本理念が確実に受け継がれてきました。そして今後は、3つのテーマを踏まえて、優れた教育・研究を行い、またその成果を用いて、地域の課題解決のために広く社会へリーチアウトすることも、重要な役割となります。

そのため、法学部、研究大学院、法科大学院においては、学生の多様性をより高め、歴史と比較という観点から見た法律学と政治学の基底的な知識と考え方のみならず、その応用、他の学問分野との融合的な視点等も教授して、新しい社会課題の解決や国際貢献に寄与しうる人材を社会に送りだすことが重要な役割となります。それに加え、すでに社会で活躍している方々に対するリカレント教育をより充実することも必要となります。

これらの取組みを実現するために、法学部、研究大学院、法科大学院では、多様なバックグラウンドをもち、学界において高い評価を受けている教員、豊富な実務経験をもつ教員等が、学生のニーズに対応した丁寧な教育と卓越した研究を行っています。

学生の多様性に関しては、近年、法学部入学者における女性の割合が高くなり令和8年度も40％を超えており、道外出身者の割合が65％になっています。

リカレント教育については、とりわけ力を入れ始めたところで、たとえば、社会経験のある方々も博士課程に進学しやすいような入試改革やカリキュラム改革も実施しました。修士課程でも社会経験のある方々を対象とした入試を行っています。同窓生の皆さんも、ぜひ久しぶりに北大で再び学ぶことをご検討いただければうれしく思います。

次に、同窓会との関係では、3月25日の学位記授与式（卒業式）の後、法学部同窓会賞の授賞式が行われました。今年も、成績が極めて優秀な2名の学生が個人として表彰され、また、国際法の児矢野マリ教授が顧問を務める北大国際法・国際関係研究会が、ジェサップ国際法模擬裁判大会に出場し総合準優勝などに入賞するなど研鑽の成果を発揮していることから団体として表彰されました。授賞式に参加した学生は、いずれも未来の夢を熱く語っていました。

このような同窓会の活動は、法学部生のモチベーションを高め、法学部生と同窓会の強い絆を作り出すことに大いに役立っていると感じました。

これからも同窓会のみなさまの温かいご支援を賜りたく、心よりお願い申し上げます。

弁護士法人
札幌英和法律事務所
弁護士 田中 敏滋
（昭和50卒26期）
〒060－0062札幌市中央区大通西十一丁目 半田ビル六階
電 話（〇一一）二八一－一四四一
ＦＡＸ（〇一一）二八一－一四四二

延齢草

北大に来たころ

高見　進

私が北大法学部に民事訴訟法の助教授として赴任したのは、１９７５年で、退職したのは２０１３年ですから38年もお世話になりました。

赴任した当時は大学にまだまだ牧歌的な雰囲気が残っており、また、先輩の先生方にことのほか親切にしていただきお宅にも招待されました。

民事訴訟法の先任の小山昇先生に万般お世話になったことはある意味自然でしたが、憲法の深瀬忠一先生は私がクリスチャンであることをどこからか聞いて知っておられ特に親しく接して下さいました。深瀬先生は平和的生存権を提唱され、恵庭裁判、長沼ナイキ裁判に鑑定人として関わられましたが、高知県生まれで陸軍幼年学校に入り敗戦時は陸軍士官学校に在籍しておられたという経歴からも窺えるように一途な熱い方でした。深瀬先生はフランスでの留学のおりフランス中をオートバイで駆け巡ったそうでそのときの印象もふまえ自由と平等の国としてフランスびいきでした。もっとも、フランスは軍隊をもち、核兵器も保有しているのですから、日本国憲法の平和主義とは相容れないはずです。深瀬先生からは北大のエルムの木々豊かなローンを描いた絵をいただきました。

松沢弘陽先生は、日本政治思想史の専門家で無教会派のクリスチャンでしたが、私に「キリスト教と知識人」(岩波講座日本歴史16)の抜き刷りを下さいました。そこには、明治のアメリカ宣教団のキリスト教の伝道は、官立学校が日本のキリスト教化の戦略上の要点と判断して、帝国大学のＹＭＣＡに資金を集中的に投じたと書かかれています。私が東大でＹＭＣＡの寮にお世話になったことをご存じだったのだと思います。

小暮得雄先生は、専門は刑法でしたが、よく大麻のご自宅に招いてくださいました。そのおりいろいろなゲームを教えてくださったのですが、中国象棋(シャンチー)をはじめて知りました。これは駒が丸い形をしているほかは、日本の将棋と似ていますが、細かいところは違うのでとまどうばかりでした。面白いので一つ購入しいまでも持っています。ちょうど同じ時期に北大に赴任した古矢旬助教授とお宅に伺ったときは、小暮先生と行政学の伊藤大一先生対古矢・高見でコントラクト・ブリッジをしましたが、全く歯が立ちませんでした。後から、小暮先生は東大将棋部の強豪として鳴らし、全日本アマチュア名人戦決勝戦まで進んだ方だったことを知りました。

五十嵐清先生は、比較法学が専門でしたが、民法もドイツ法も本当によく知っておられその博識に圧倒されました。自分は外国の理論をよく咀嚼できるが、それを日本法に生かすアイデアがないと謙遜されていました。亡くなるその年まで熱心に研究会に出席され発言されるご様子をそばで拝見することができたことは幸せなことでした。

まだまだ多くの先生方のことが思い出されますが紙数も尽きたので筆をおきます。

（北大名誉教授）



榆苑の題号

「榆苑」表紙の題号は、昭和45年法学部を卒業した書道家岡田大岬さんの作品です。

１９９５年、会報編集委員会の中村睦男委員長から揮毫のお話があり作成したもので、毎年掲載しております。

長らく江別市で「岡田大岬書道研究室」を主宰し活動してましたが、現在は札幌市北区に移られました。

２０２５年７月２日(水)～６日(日)までの五日間、第十五回北晨社書展がギャラリー　エッセ(札幌市北区)にて開催されました。岡田さんの「備えあれば患いなし」の作品を前にお話しを伺いました。

創基150周年記念特別企画

北海道大学は本年創基150周年を迎えます。法学部同窓会といたしましても、会報『楡苑』の本号に特別企画として、校友会エルムの国内地区同窓会の会長や役員などで法学部出身の方や交流のある方に、ご出身地や法学部を志望した理由、学部・ゼミの思い出、卒業後の進路、同窓会活動のことなどについて伺いました。

北海道大学福島県同窓会

会長　國井輝夫（第16期）

私は米どころで月山の頂を有する、山形県庄内町の出身です。

鶴岡南校の北海道旅行で訪れた北大へのあこがれが強く北大法学部に進みました。

ゼミは矢田俊隆先生の政治学演習を選びました。矢田先生の『仕事としての政治』などを著したマックスウェーバーに関する講義は今でも記憶に残っています。

サークルはユネスコクラブで2年間ほど活動し、泊村での生活実態調査や映写会等に参加したことは忘れられません。

昭和40年に法学部を卒業し都市銀行に入行しましたが、途中退職し、福島県庁に採用となり、総務、企画、商工、土木、福祉と各部で勤務しました。県の法規係長のとき県庁エルム会を創設し、福島県同窓会と連携を図りながら活動したのが思い出深いです。



2011年の東日本大震災後、県庁エルム会と県同窓会は一本化され今にいたっております。

現在は認定NPO法人の「ふくしま成年後見センター」の代表理事として、法学部で学んだことを基に社会に貢献しております。

北大法学部同窓会報を手にとって学生時代を想起して、新たな活力を生み出しましょう！

北海道大学関西同窓会

会長　植松高志（第24期）

私は八ヶ岳の麓、南に富士山を望み、高原リゾートして名を馳せる長野県諏訪郡富士見町の出身です。

私の大学入試は昭和44年、学園紛争で東大入試中止の年でした。私の高校でも学生運動に傾倒する者もいました。そんな時期に、庄司薫の『赤頭巾ちゃん気をつけて』を読んで強い影響を受けました。「人を幸せにするための勉強をしたい」と思ったことも事実です。

北大文類に進み、教養学部2年後半の学部移行では、「法学部」に魅力を感じて選択しました。



法学部では法曹界を目指して「民訴のゼミ（小山昇教授）」に入りました。応援団に入っていて、あまり勉強もしていませんでしたので、ゼミについていけないと感じたので、教授に相談してゼミを変わることにした時、「ドロップアウトされる、それもよいでしょう」と言われたことは少々ショックでした。

そして、「行政法のゼミ（遠藤博也教授）」に移り、4年次には「政治思想史ゼミ（岡利郎教授）」を選びましたが、ゼミの内容よりも、遠藤先生も岡先生もお酒が大変に強く、飲み会の思い出が今でも残っております。

昭和48年に卒業し、松下電器産業㈱、現パナソニック㈱の人事職能で勤務しました。定年後は「堺経営者協会専務理事」を務めました。

現在、校友会エルム副会長、北大関西同窓会会長として同窓会活動に参画しております。

また、恵迪寮から桑園学寮で寮生活を謳歌し、応援団（第61代）に所属して7大戦の遠征に各地を訪れましたので、恵迪寮同窓会理事、応援団OB会など北大とのつながりは強いものがあります。

今年は北海道大学創基150周年を迎え各種行事が開催されますが、できるだけ多くのイベントに参加して〝北大愛〟を深めたいです。

4月6日の「エスコンフィールドHOKKAIDO」に来賓招待いただき参加しました。入学式も卒業式もなかった私は「それは、それは素晴らしい入学式」で、感激・感動の式典でした。時代の変遷を感じた入学式に参加できたことに感謝しております。

法学部同窓会の益々の発展を祈念致します。

新潟エルム会

会長　野村修一（第25期）

私は、「越乃寒梅」はじめ日本酒の酒蔵が多く、北前船の西回り航路の寄港地で北海道と歴史的な繋がりを有する新潟市の出身です。

法学部を有力選択肢に考えておりましたが、当時は「文類」としての募集・入学であり、入学後に学部を選ぼうと考え北大を志望しました。

移行した法学部では後に京都大学に移られた杉原高嶺先生と、大塚龍児先生のゼミを選びました。両先生とも北大に助教授として着任された直後で、まだ講義を受け持たれていませんでしたので、私は両先生の「最初の教え子」になります。

また、小山昇先生の民事訴訟法の講義が、大変高尚で頭に入れようにも、入らなかった、つまり「分からなかった」ことを覚えています。

昭和49年に法学部を卒業し新潟県庁に入り、総務と土木部門に比較的長く勤め、定年退職しました。



現在「新潟エルム会」の会長を務めておりますが、集いの最後に、参加者全員そろって「都ぞ弥生」を歌うのが何よりです。今はエルム会の今後を見据え、若手や中堅の会員を増やしたいと願っております。

もう30年以上も前のことでしょうか、戦中か戦後まもなく理系学部を卒業された大先輩が同窓会の席上で「戦後出来た学部は北大の本流ではない」という趣旨の発言をなさいました。

後発の学部であることはいつまでも変わりませんが、法学部はしっかり地歩を固めたと思います。法学部卒として誇りを持ちましょう。

北大同窓会佐賀県支部

支部長　大宅公一郎（昭和52年卒）

私は佐賀県から北大農学部に入学し、昭和52年の卒業後、佐賀県庁で農業農村整備に努め、退職後は農業土木コンサルの業務に従事しております。

札幌の下宿では北海道開拓の父・島義勇開拓判官の出身に因み「佐賀の人」として親しみを持って迎えられました。

地元佐賀においては、島義勇や日本近代司法の父と呼ばれる江藤新平は、「佐賀の乱」の首謀者として反乱人扱いされておりました。札幌に来て初めて島義勇の存在の大きさを知ることが出来ました。

2022年「楡苑38号」に島義勇のことや北大同窓会佐賀県支部の活動を掲載頂き、法学部同窓会との交流を行っております。

佐賀県では、「佐賀の乱」を士族の反乱ではなく政府から仕掛けられた「佐賀戦争」ととらえ、江藤新平や島



義勇の功績を再評価する復権プロジェクトが展開されております。

札幌の北海道神宮では毎年4月に佐賀県知事も出席し「開拓判官島義勇顕彰祭」を開催しており、法学部同窓会の猪飼事務局長に私の代理として参加頂いております。

私は、平成5年から「佐賀県青春寮歌祭」を主宰しており、今年で34回となります。高齢化で若い方の出席が少なくなり、北大恵迪寮同窓会や各地の大学同窓会などとの連携・協力を得ながら継続しております。

寮歌祭は毎回、トップが北大で始まりトリを早大が務め、終了後には佐賀の「須古寿司」や「地酒・鍋島」などで交流を深めております。

昨年は法学部同窓会の猪飼事務局長が札幌から自費参加され、交流会で、島義勇の札幌開拓への貢献を話してもらい、地元佐賀では知られていない内容に、聞いた方は感動しておりました。

法学部同窓会の益々の発展を祈念します。皆さん、11月21日(土)に佐賀市で開催する青春寮歌祭にぜひお越し下さい。

北海道大学法学部東京同窓会

会長　小口正範（第29期）

私は１９７４年に栃木県立宇都宮高校から北大に進学しました。

小学生の頃から蝶の採集、標本作成に熱中し、蝶大好き少年にとって固有種の多い北海道は憧れの地でした。5月から9月まで道内の野山に蝶を追い求め、また幼虫飼育にのめり込んだ学生生活を送っていました軍艦講堂前にあった広葉樹「赤楢」の小枝を幼虫飼育のために密かに頂いていました。

法学部には教養時代の友人の後についていっただけで、特に意図したものではありませんでした。ゼミは桜田嘉章先生の国際私法を選びましたが、これも民法や刑法といったメインから距離を置いた選択でした。ゼミの内容は全く覚えておらず、私の下宿で先生を交えて駄弁っていたことが唯一の記憶です。

１９７８年に法学部を卒業し、三菱重工に入社。40年以上財務業務に関わり、ＣＦＯ（最高財務責任者）を最後に退職しました。２０２２年からは国立研究開発法人日本原子力研究開発機構の理事長として、脱炭素社会の実現に向け原子力のポテンシャルを最大限引き出す研究開発をリードしております。



私の人生は、メインが蝶と遊ぶことで、サブがＣＦＯの育成と原子力の開発です。ＣＦＯの育成に関しては、現在（一財）日本ＣＦＯ協会の理事長を務めています。蝶との関係は林碧のペンネームで『蝶のことなど』に、ＣＦＯの育成に関しては本名で『ＣＦＯ巡礼』に纏めています。この二冊が私の自伝です。

同窓会は各界に旅立った卒業生の心の故郷で、同窓会が強ければ強いほど卒業生は安心して存分に活躍できます。

がんばれ北大法学部同窓会！

北海道大学東京同窓会

副会長　石川裕一（第30期）

私は粋を求める江戸っ子で、小学校から高校まで学習院で学び、「知り合いがいないところ」を希望して津軽海峡を渡りました。手ぶらでの来札の為、大学本部に相談したところ取り敢えず恵迪寮に行くようにと言われましたが、学習院出身の身元が分かり、一週間で寮を追い出されました。

やむなくススキノで働く道端で知人となったもとに身を寄せて、サンドイッチマンや地下鉄土木工事のアルバイトに明け暮れました。

もともと「プロのサラリーマン」を目指しておりましたので、法学部に移行し、物事の基本を学ぶ為、ゼミでは五十嵐清先生の比較法や石川武先生の法史学を学びました。五十嵐先生からは大学院進学を勧められましたが、実学への思い断ちがたく就職を目指しました。

昭和54年に卒業後、商社に入り貿易業務をメインに西ドイツやサウジアラビア、アメリカの各地で勤務しました。サウジアラビアでは砂漠を

行商して日本の醤油を広めるなど、様々な体験や出会いを得て、現在は米国企業のジョンソンコントロールズの役員としてサラリーマン経営者を継続しながら、不動産開発や総合マネジメントの会社を経営しております。

これまで幾多の荒波や試練を乗り越えてきた礎には、北大での心身の鍛えや学びが厳然と有ると実感しております。

私が北大で得たのは、開拓者魂のＦｒｏｎｔｉｅｒ、厳しい自然環境に挑むF:ｉｇｈｔｉｎｇ ｓｐｉｒｉｔ、他者を受け入れるＦｒｉｅｎｄｓｈｉｐ、公正に受け止めるＦａｉｒｎｅｓｓ、自由闊達なＦｒｅｅｄｏｍの5エフであります。

今は「新渡戸カレッジ」のフェローとして、不合理、非効率、非論理に価値を見出し、世界でサバイブできる人材の育成に力を入れております。ただ、若い学生の皆さんから、こちらも生きるエネルギーを貰っています。



法学部同窓会の俊英や才媛の方々が、社会で存分に力を発揮して活躍できるよう、これからも同窓会活動に努めて参ります。

北海道大学東京同窓会

理事・募金産学連携委員長

廣重勝彦（第33期）

私は、室町時代に瀬戸内海交易の港町して繁栄し、白壁の街並みが残る山口県柳井市の出身です。

証券エコノミストを目指し、北大法学部では、大塚龍児先生のゼミで商法を学びました。

北大ではライフル射撃部に所属し、射撃のできる練習場を造る土木作業に汗を流し、完成した練習場での実践的なトレーニングに励みました。練習の成果は、北大が全道大会で優勝となって現れ、私は北海道学生射撃連盟の幹事長も務めました。

昭和57年に卒業し国内証券会社に勤めた後、外資系商社などで働きました。その後国内で証券情報を発信する会社を起業し、今では証券エコノミストとして金融市場分析をメインとする会社を経営しております。

市場を相手とする日々においては、北大で商法を学べたことが私の活動の基礎となっていると実感しております。

また、「新渡戸カレッジ」ではフェローとして、経済や金融、市場について学生の皆さんの触発になるように努めております。



北海道大学東京オフィス副所長を務めており、東京同窓会では「募金・産学連携委員長」として活動しておりますが、法学部同窓会の皆様には「死ぬまでＢｅ ａｍｂｉｔｉｏｕｓ」と、エールを送らせていただきます。

北海道大学中部地区同窓会

会長　田口敦史（第44期）

私は「堂上蜂屋柿」で知られ、坪内逍遥の出身地である岐阜県美濃加茂市出身です。

高校時代は漠然とサラリーマンになりたいと思っていたため、就職するうえで「潰しが効く」学部として北大法学部を志望しました。

法学部のゼミは3年時に藤岡康宏先生の民法を、4年時に高見進先生の民事訴訟法を選択しました。

藤岡先生の民法ゼミにおいては、各回でゼミ生が持ち回りで判例に関する発表を行い、全員で討論をする形式で実施されるなか、毎回、先生からツブラな瞳で優しくも熱いご指導があったことを記憶しています。

在学中はサッカーサークル「エルフ」で汗を流し、１９９３年卒業後は愛知県庁に勤め、主に建設部門の総務・人事等の内部管理事務を担っております。

北大同窓会では、中部地区同窓会で主に活動していますが、トヨタ自動車を始めモノづくりが盛んな地域であるため工学部系の卒業生の会員

が多く、異業種・異職種の方との交流はとても貴重な体験であり有意義であると感じております。

世の中が大きく変化し全般的に不安定で、個人として何が正解か分かりにくいと五十歳を超えても日々感じでいますが、そんな中でも北大のフロンティアスピリットと法学部で学んだリーガルマインドは自分の心の指針であり財産となっているとともに、同じ志を持った仲間との出会いや交流は、ずっと絶やすことなく続けていきたいと思っています。

２０２３年２月に、中部地区の愛知・岐阜・三重・静岡・長野・山梨・石川・富山の８県を対象エリアとする、交友会エルムの基礎同窓会「中部地区同窓会」の設立に関わり、今も精力的に活動を続けています。

現在の会員登録は２００名を超え、会員の６割以上を占める２０００年代以降卒業の若い世代を中心に、定番のジンギスカンパーティーや新人歓迎会、著名卒業生による講演会の他、酒蔵巡りや水族館のバックヤードツアー、ゴルフコンペなど、会員自らが企画し活動する機会も積極的に設けています。

中部地区に縁があって、興味がある方は是非ともお声掛けください！連絡先アドレスは次の通りです。

hokudai.chubu@gmail.com



北海道大学東京同窓会

理事・総務委員長

松浦永治（第47期）

私は、鳥取県米子市の出身です。どうせ行くならより遠い大学に、という単純な志望動機で北海道大学に進学しました。

北大法学部では中村睦男先生のゼミで憲法を、森啓先生のゼミで公共政策形成論を学びました。大変残念なことにあまりに不勉強であったため、学んだ多くの判例など中身は全く記憶にありません。覚えているのは中村ゼミで毎週課題であった二千字程度のレポートの作成に四苦八苦したことと、その評価も毎回ボロボロだったことです。



とにかく出来の悪いゼミ生ではありましたが、中村先生には、就職の際、相談のためにお時間を取って頂き、今となっては大変貴重なご示唆、ご教示も賜り、平成８年に卒業し化学メーカーに就職することが出来ました。

北大ではユースホステルクラブで活動しました。当時は道内にまだ夜行急行列車が走っており、テントやシュラフを入れたザックを担いで列車に乗り、バスに乗り継ぎ、最後は歩く、また、山に登るというスタイルで北海道内を隈なく旅行しておりました。ユースホステルクラブは札幌駅のホームでサッポロソフトのワンカップを一気してから列車に乗るという伝統もありました。今では公序良俗に反するでしょうが、とても懐かしい思い出です。

北海道大学東京同窓会では、横田浩同窓会長が勤務先の代表取締役社長であったこともあり、限りなく業務命令に近いのですが、総務委員長として連絡調整に汗を流しております。

５月17日に毎年恒例となっております「北大東京ジンパ」が立川市の昭和記念公園で盛大に開催されました。札幌から遠路ご参加された法学部同窓会猪飼事務局長にお会いし、本稿作成に至りました。

北大卒業生は、ジンパと聞いただけで血沸き肉躍る（踊り食らう？）のではないかと思っております。法学部同窓生の方々のみならず、多くの卒業生の皆様に東京同窓会にご入会頂き、東京ジンパにご参加頂ければ幸いです。

佐々木亮子
E-mail sasaki.ryoko@ruby.plala.or.jp

創基150周年記念特別企画

北大東京ジンパ2026に参加して

法学部同窓会事務局長　猪飼秀一

【北大東京ジンパ】

「ジンパ」は「ジンギスカンパーティー」の略で、羊肉を使ったバーベキューを楽しむ北大発祥の文化です。もともとは北大の学生用語でしたが、現在は広く道民にも浸透しています。

北海道大学東京同窓会では2013年6月から恒例の「北大東京ジンパ」を開催しており、2024年には「同じ会場で同時に鉄板焼きをした最多人数」のギネス記録に挑戦し、798人で記録を更新しました。



① 入口案内板



② テントの様子

【北大東京ジンパ2026】

2026年は5月17日（日）東京都立川市の国営昭和記念公園で開催されました。

当日、天候は快晴で強い日差しの中、気温は30度を超え、立川駅から公園内を歩いたため、サウナに入った後のように歩くと汗が噴き出ました。

入園料450円を支払い向かったバーベキューガーデンにはテントが立ち並び、椅子とテーブルが用意され、日陰ができて熱中症対策も万全な状態でした。

チケットは事前にインターネットで購入しましたので、受付で名前を確認し、テープを腕に巻いて会場に入りました。

【ジンパ開会】

正午、東京同窓会の横田浩会長（現・顧問兼理事）の開催挨拶、野口伸副学長の乾杯でスタートしました。


③ 開会挨拶


④ 乾杯発声

北海道大学関係者のテントに案内頂き、参加された方々とお話しさせていただきましたので紹介します。

【校友会エルム会長】

真弓明彦校友会エルム会長は旭川出身で工学部電気工学科を昭和54年に卒業し北海道電力に入社し、再生可能エネルギー受入れ等に努め、2014年からは代表取締役社長として大口ガス小売りや北海道胆振東部地震によるブラックアウトへの対処など北電として前例のない事柄に、まさにFrontier spirit を発揮して取り組まれました。

学部横断の「北海道大学ほっかいどう同窓会」会長でもある真弓会長から、「法学部同窓会の皆さんは、法曹界はもとより国や地方公共団体、各種の民間企業と広い分野で活躍をされておられます。北大が新たな150周年を目指して進んで行くためにも、皆様のお力をお貸しいただきたい」と、エールをいただきました。


⑤ 真弓会長

【理事・副学長】

石塚真由美副学長は御三家の一つ水戸徳川家所縁の水戸出身。動物がお好きで獣医学部に学び、2010年には北大大学院獣医学研究科における初めて女性の教授になられました。

2019年に改正された動物愛護法により獣医師は動物虐待に対する通報義務を負うことになりました。

石塚副学長は動物の状態や置かれた環境を科学的に分析し法的問題を解決する「法獣医学会」を立ち上げており、「法学部との連携が大切になっております」と法学部への期待もお話しいただきました。


⑥ 石塚副学長

横井理夫副学長・事務局長は同志社大学経済学部出身。同志社大学の応援歌「若草萌えて」は清水英明が作詞し、札幌農学校校歌「永遠の幸」は有島武郎の作詞で、歌詞は異なりますが、原曲は米国北軍の行進曲「Ｔｒａｍｐ！　Ｔｒａｍｐ！　Ｔｒａｍｐ！」で、テンポに差があるもののメロディーが同じです。明治３年、同志社創立者の新島襄が、アメリカの大学でクラーク博士から化学を学んだとの逸話を思い浮かべました。

横井副学長は１９９４年に卒業後文部省（現・文部科学省）に入省され、直近は、明治維新以来中央省庁初となる京都移転した文化庁の政策課長から本年４月に北海道大学に着任されました。

過去に科学技術・イノベーションも担当され、北大も参画した産学官連携の「函館マリンバイオクラスター」により「がごめ昆布の活用や製品化」が上手くいったとの評価を伺うことができました。

初めての北海道勤務で、北大のキャンパスの広さや自然溢れる環境に感動されておられました。


⑦ 横井副学長

【隣のテント】

北大関係者の隣は株式会社トクヤマのテントで、横田浩代表取締役会長は１９８５年経済学部で東京同窓会の会長を務められておりましたので、ご挨拶させていただきました。

【法学部同窓生】

会場では、東京同窓会の石川裕一副会長（30期）や理事の廣重勝彦募金・産学連携委員長（33期）、松浦永治総務委員長（47期）のほか、法学部卒業後ほどない方々も参加しておりました。

ただ、学部ごとの把握はしていませんので、参加された法学部同窓生の全員にお会いすることはできませんでした。

【集合写真と大円陣】

会場の片付けが終わってから、隣の広場で参加者一同による集合写真を撮影し、広場一杯に広がる大円陣を組み岩崎哲也第23回北大寮歌祭実行委員長の前口上で「都ぞ弥生」を大合唱しました。あまりに大きくて後半は輪唱みたいになり「清き国ぞとあこがれぬ」が３回響き渡りました。これほど広がった円陣は、東京ジンパでしか体験できないのではと思いました。


⑧ 集合写真準備


⑨ 円陣とエール

会場には余韻冷めやらず、円陣を組んで「ストームの歌」を歌うグループもあり、その様子を目にしながら会場を後にしました。


⑩ 醒めよ迷いの♪


⑪ 帰路

天候に恵まれた東京ジンパは大盛況で終わりましたが、東京同窓会の役員はじめ実行委員会の皆様のご尽力の賜と感謝申し上げます。

本稿は、校友会エルム、北海道大学東京同窓会の協力を得て作成できましたことに御礼申し上げます。

＊写真③～⑦は校友会エルム提供。



東京基準より北海道基準、北の夢。

エナライン株式会社

会　長　石川　裕一

エナライン株式会社
〒108-0023
東京都港区芝浦３丁目９−１　芝浦ルネサイトタワー 12F
TEL：03-6435-1933

学部の現状　法学部・大学院法学研究科・法科大学院の動き

教員の動き

教員の転出等

令和8年3月末には、教授の川村力先生、特任教授の城下裕二先生、准教授の森悠一郎先生、助教の左コウ雨先生、梁小イ先生がそれぞれご退職されました。

新任教員等

令和7年7月に、渡口紘子先生が助教に着任され、10月には横路俊一先生と山本周平先生が教授に昇任され、村木数鷹先生が准教授に着任されました。

令和8年4月には小浜祥子先生が教授に昇任され、藤澤尚江先生が教授に、中田翔太先生、上條諒貴先生が准教授に、姜富超先生が助教としてそれぞれ着任されました。

令和7年3月末に退職された嶋拓哉先生が名誉教授になられました。

学生の動き（法学部・大学院法学研究科）

入試と新入生

令和8年度の法学部入学者は185名（定員180名）で、道内出身者が66名（35・7％）、道外が119名（64・3％）となっています。

道外出身者は前年度と比べ、ほぼ同数で、その他の内訳では、現役が132名（71・4％）、過年度卒業生が53名（28・6％）、男子学生は110名（59・5％）、女子学生は75名（40・5％）となっています。

また、平成23年度から導入された総合入試制度の総合入試文系入学者は100名（定員100名）となっており、この中の約20％の学生が、来年4月から法学部2年次に移行します。

卒業生と就職先

令和7年度の法学部卒業生は、226名（男子159名、女子67名）です。

そのうち、就職した者は153名で、就職先は金融保険業が24・2％と最も多く、次いで公務員が22・9％（国家公務員10・5％、地方公務員12・4％）、製造業が12・4％、サービス業が7・8％となっています。

なお、就職先が道外の学生は123名（80・4％）、道内の学生は30名（19・6％）です。

また、進学者は51名、その他（公務員試験、大学院受験の準備など）は22名となっています。

学生の動き（法科大学院）

入試と新入生

法科大学院においては、例年、札幌試験場で入試を実施しており、令和8年度の法科大学院入学者は計46名（定員50名）で、2年課程入学者が34名、3年課程入学者が12名となっています。

入学者の内訳は、本学法学部卒業生が28名（61％）と6割を占めており、道内大学出身者が31名（67％）、道外大学出身者が15名（33％）で、道内大学出身者は令和6年度の57％と比べて増加しております。

その他の内訳では、新卒者が37名（80％）、過年度卒業者が9名（20％）で、これらのうち社会人（社会人経験1年以上）は9名（20％）となっています。

修了生と就職先

令和7年度の法科大学院修了生は、計41名（2年課程29名、3年課程12名）です。

そのうち、法学研究科専門研究員として司法試験受験を目指す者は26名（63％）です。

なお、法科大学院における令和7年司法試験合格者数は、在学中受験11名、修了生15名の計26名（合格率の全国大学順位は47大学中11位）であり、司法試験に対する本学法科大学院の累積合格者数は696名です。



同窓会だより

北大同窓会佐賀県支部

佐賀県青春寮歌祭

北大同窓会佐賀県支部の大宅公一郎支部長が主宰する第33回佐賀県青春寮歌祭は、佐賀県外からの参加も得て、2025年11月15日(土)午後1時、佐賀市エスプラッツで開催され、札幌から参加してきました。

寮歌をはじめ校歌、応援歌を歌い合い、早稲田大学や同志社大学、鹿児島大学など国内各地の20大学、270名の参加者は、若き日の学生時代に思いを馳せていました。



北大勢9名



檄文朗読の大宅支部長



琵琶湖周航の歌で陸ボート

午後1時開会の10分前にリハーサルを終え、トップが北大で、壇上9名による『都ぞ弥生』、札幌農学校校歌『永遠の幸』、『ストームの歌』と、後半バテながらも3曲披露しました。途中に大宅支部長が北大小樽商大対抗戦の応援合戦を彷彿とさせる、巻紙を投げ広げての檄文を朗読しました。

「みんなで歌おう!」のコーナーでは、高齢で参加ができなくなった旧制高校の『嗚呼玉杯に』や『琵琶湖周航の歌』などを参加者全員で歌いました。

終了後の懇親会にも現役寮生も交え50名が集う大盛況の寮歌祭でした。

北大東京同窓会

2026年5月17日(日)に北海道大学東京同窓会主催の「北大東京ジンパ2026」が東京都立川市の国営昭和記念公園で開催されました。

気温30度を超える強い日差しの下でしたが、立ち並ぶテントが快適な日陰となり、焼き立てのジンギスカンと野菜、冷えたビールなどを堪能することが出来ました。

法学部出身者では、東京同窓会役員の石川裕一(30期)副会長や理事の廣重勝彦(33期)募金・産学連携委員長、松浦永治(47期)総務委員長はじめ、卒業して数年以内の若い方々も参加しておりました。

参加者総数は941名となる「大ジンパ」は、最後に参加者の集合写真を撮影し、大きな輪となって広がった円陣を組み、工学部機械工学科昭和59年卒の岩崎哲也さんの前口上で「都ぞ弥生」を合唱して解散しました。

参加者の紹介などは11頁・12頁に掲載。



弁護士法人向井・中島法律事務所
弁護士 向井 諭
(昭和50卒26期)
〒060-0062札幌市中央区大通西十五丁目
ラスコム十五ビル六階
電話(〇一一)六四二-九二二一
FAX(〇一一)六四二-八六七三

同窓会歳時記

同窓会の2025年度（2025年7月～2026年6月）事業などを中心に時系列で

2025年7月11日（金）

【2025年度同窓会役員会の開催】

① 時間：午後6時から7時30分

② 場所：法学部研究棟321研究会議室

③ 出席：役員20名



会場の様子

④ 挨拶：藤田美津夫会長
佐々木雅寿法学研究科長・法学部長

⑤ 議案：総会提出議案を審議、承認

⑥ 報告：「第4回北大法学部同窓会賞」授賞式の開催など

⑦ 会報第41号第3回（最終）編集委員会（委員長山崎幹根北大教授）：発行予定日7月22日
全国配送日7月31日

2025年7月22日（火）

【楡苑第41号の発行】

① 印刷：㈱須田製版（札幌市西区）

② 印刷部数：8000部

③ 送付先：（株）サラト（兵庫県姫路市）

2025年7月31日（木）

【楡苑第41号の会員への発送】

② 委託先発送者：（株）サラト

③ 郵送先：郵送先届出の卒業生会員全員（原則として勤務先は除く。）、終身会費を7月1日までに納入済みの在学生会員

2025年9月27日（土）

【「北大ホームカミングデー2025」文系4学部・同窓会合同企画公開講演会（運営当番：文学部）】

① 時間：午後2時～4時

② 場所：人文・社会科学総合教育研究棟

③ 標題：「アンパンマンで描かれた死と生　やなせたかしの生涯」

④ 方法：集客開催

⑤ 参加者：105名

⑥ 講演：梯　久美子

【2025年度定時総会】

① 時間：午後5時～5時40分

② 場所：北大インフォメーションセンター「エルムの森」内「カフェ de ごはん」

③ 参加者：23名

④ 議案：7月11日開催の役員会で承認された次の議案
・2024年度事業報告（案）
・同収支決算報告（案）
収支差額13万円の黒字決算
・2025年度事業計画（案）
・同収支予算（案）
収入と支出がそれぞれ前年度より15万円増とした335万円の収支均等予算
・役員の一部改選（案）を審議し、全会一致で承認

【同窓会主催シンポジュウム】

① 時間：午後5時40分～6時30分

② テーマ：法学部生と語る同窓会活動

③ 学生の参加：法律相談室3名

【法学部同窓会会員懇親会】

① 時間：午後6時30分～8時30分

② 参加者：28名

③ 会長挨拶乾杯　藤田美津夫会長

④ 締めの挨拶　髙橋了副会長



懇親会の様子

2025年9月～10月

【同窓会ホームページの更新】

楡苑第41号や、2025年度定時総会開催報告を掲載。

【会報の贈呈】

楡苑41号を国立国会図書館に2部贈呈

2025年11月18日(火)
【会報第42号(2026年度版)第1回編集委員会の開催】
① 時間：午後5時～6時15分
② 場所：法学部棟3階センター会議室
③ 委員長：林誠司北大教授
④ 協議：第42号の編集方針、企画構成概要、主な出筆者選出など
⑤ 原稿依頼作成：委員長と事務局で推進

2025年12月30日(火)
【新年挨拶文の郵送】
① 送付先：在学同窓会員(1年から3年)名記載した保証人宛て
② 送付部数：704通
③ 内容：会長から、新年挨拶と同窓会活動報告、会費未納会員へのご協力のお願いなど

2026年1月7日(水)
【2026年版会員名簿対応】
㈱サラトと名簿作成について協議

2026年2月17日(火)
【会報第42号第2回編集委員会の開催】
① 時間：午後5時～
② 場所：法学部棟2階小会議室
③ 委員長：林誠司北大教授
④ 協議：構成案の概要と出費者選考について協議し、原稿作成を推進

2026年3月8日(日)
【卒業(修了)確定者への挨拶文の郵送】
① 送付先：2026年に卒業(修了)する学生番号公表を受け、卒業(修了)する同窓会員名記載した保証人宛て
② 送付部数：261通
③ 内容：会長祝辞と、佐々木雅寿法学研究科長・法学部長のご祝辞。
④ 会費関係：送付部数261通のうち会費納入済みの方は46・4％、121名

2026年3月25日(水)
【令和7年度学士学位記授与式の開催】
① 時間：午前10時
② 場所：第一体育館
③ 授与：各学部の総代に授与
④ クラーク賞：法学部は川添祐基君(3年次早期卒業者)
⑤ 3年次卒業者：11名

【第5回北大法学部同窓会賞授賞式の開催】
① 時間：午後1時30分
② 場所：法学部棟2階小会議室
③ 内容：詳細は24頁に掲載

2026年3月31日(火)
【在学生への挨拶状郵送結果】
総数：965通
内訳：1年～3年等704通
卒業(修了) 261通
会費納入：360名
納入率：37・3％

2026年4月6日(月)
【令和8年度入学者入学式】
① 場所：エスコンフィールド北海道(北広島市)
② 学士課程：2，588人

2026年5月13日(水)
【新入生への挨拶文の郵送】
① 送付先：法学部、大学院法学研究科(修士・博士)、法科大学院入学生(いずれも北大法卒者を除く)への新入生名記載した保証人宛
② 送付部数：204通
③ 内容：・会長祝辞と会費納入のお願い
・曽野裕夫法学研究科長・法学部長のご祝辞
④ 会費納入状況：6月30日現在59名、約28・9％

2026年6月5日(金) ～同7日(日)
【第68回北大祭】
「法学部同窓会」の名刺広告代を協賛
模擬店の様子などは26頁掲載

2026年6月30日(火)
【2025年度収支決算確定】
単年度収支差　868，454円
次年度繰越金　17，164，991円
(当該収支決算報告書は、会報裏表紙に掲載。)
年度別繰越金の推移
2016年度　317万円
2017年度　696万円
2018年度　832万円
2019年度　968万円
2020年度　1，242万円
2021年度　1，414万円
2022年度　1，548万円
2023年度　1，615万円
2024年度　1，630万円
2025年度　1，716万円

【役員改選】
2026年度総会(9月26日開催予定)にて役員改選を行います。

2026年8月1日(土)予定
【第43回法経対抗ゴルフ大会】
① 時間：正午
② 場所：札幌エルムカントリークラブ(恵庭市)
③ 主催：経済学部と共催
④ 法学部リーダー：樋口知己㊶
⑤ 助成：大会運営費の一部、経済学部同窓会と折半予定

北大LS卒は躍動する

私の二刀流

遠山　りえ
平成21年北大LS修了



【高松から札幌へ】

私は、香川県高松に生まれましたが、父親の仕事の関係で5歳の時から札幌に住み、以降、大方を北海道で過ごしてきましたので、「準どさんこ」といえます。

この度、道庁で共に仕事をした同窓会猪飼事務局長からお声をかけて頂き、楡苑に原稿を掲載する機会を頂きました。

【道庁勤務】

北大経済学部経営学科を卒業後、道庁に入庁しました。道庁では、秘書課などにて勤務し、一般行政職の仕事を担った後、家族の渡米に伴い、道庁を退職しました。

帰国後、プロの英語通訳として稼働していましたが、縁あって、堀達也・高橋はるみ知事の英語専属通訳となり、姉妹提携などの国際交流や海外要人の知事訪問への対応に努めました。

【航空路線開設要請活動】

今では新千歳空港をはじめ道内の空港への海外航空会社からの直行便が数多く就航していますが、2000年の頃は、海外観光客の来道を増やすため、海外からの直行便を就航させることが道政の大きな課題でした。

知事を先頭に、香港やシンガポール、中国各地などの航空会社本社への要請活動や具体の就航に関する日本支社・支店との実務交渉などの通訳業務に努めました。

中国やロシアの航空会社での交渉も英語で行いますので、東アジア各国を訪問しました。

【経済交流の促進】

また、北海道産品の販路促進を目指した海外訪問団や商談会、観光客誘致の活動にも通訳として参加しました。

通訳として、道内企業と海外企業の商談に同席することも多かったのですが、法的事項は弁護士に確認し、英語は通訳に任せるという状況を一つに出来たらいいのにと思い、弁護士を目指す決意をしました。

【北大LS】

十年間に及ぶ通訳の仕事を離れ、北大LSに入学しましたが、法律を学んだ経験も無い自分にとって、現実は甘くはありませんでした。

論述形式で結論に至る過程を記すことの重要さは、刑事訴訟法の白取祐司先生や憲法の佐々木雅寿先生、法社会学の高見勝利先生には厳しくも丁寧に法的考え方についてのご指導を頂きました。また同級生との勉強会は異なる視点からの考えやヒントを得ることなどの刺激を受け、有意義なLS時代を過ごせたと感謝しております。

勉強漬けの生活で、厳しい試練の日々を乗り越え、念願の司法試験に合格できました。

【国際問題対応弁護士】

弁護士として最初に入った事務所が、国内・海外両方の家事事件を多く扱っていたこともあり、当初は、離婚事案の対応が増えました。

2018年、札幌市中央区に英語を駆使して対応できる国際法律事務所を開設しました。2025年夏には、クライアントの利便性を考え、事務所の所在地を札幌市の中心部に移転させ、日本とは法律や手続の違いがある海外案件（クロスボーダー取引）に加え、国際離婚・相続といった渉外家事事件も多く手掛けています。

特に、弁護士を目指すきっかけでもあった「日本の企業が海外と商取引する際の手助けをしたい」との思いから、道内企業の海外進出支援に力を入れており、今後も、多くの企業を世界と繋げられるお手伝いをしたいと考えております。

インバウンドや国境を越えた商取引の増加など、国内における海外との交流・遣り取りに伴う法的相談・事案も多くなっています。

このため法律の専門家としての弁護士活動に、通訳経験を活かした英語力を活用した、いわば私なりの二刀流として、依頼者のニーズに応え、心に寄り添う対応を目指し、これからも努めて参ります。

トピック

2025年11月20日、札幌司法書士会（会長下村尚也（50期））は、人的・知的資源の交流、活用を図るため国立大学法人北海道大学院法学研究科及び法学部と連携協定を締結し、センター会議室で協定書調印式を行いました。同会の高橋雅幸（49期）研修所所長も加わった記念撮影を紹介します。



フレッシュ新社会人始動

北大に学んで

網敷　千時
2022年卒業（第73期）



【はじめに】

北大の学窓を離れ二年が経過した今日この頃、ありがたいことに「楡苑」への寄稿のお話をいただきました。これを機に、北大で得てきた経験や、職業人として働く中で得てきたものの見方などを綴ってみようと思います。この寄稿文を読まれる方にとって、今後の指針の参考となれば幸いです。

【北大法学部へ】

幼少期から家族旅行で北海道を訪れる機会が多く、そのたびに自然に囲まれながら勉学に励むことのできる北海道大学への憧れを抱いてきました。将来は公務員になろうと考えていたこともあって、私は北大法学部に入学することにしました。

大学では、現在は東京大学で教鞭をとられている遠藤乾先生が指導する国際政治のゼミに所属していました。ゼミでは、毎週新しい単行本1冊を読んだ上で、その内容に基づいて他の学生と議論を行い、多角的な思考力を鍛えました。

さらに、学部一年生から所属していた新渡戸カレッジにおいては、フェローゼミや対話プログラムを通じて、修めた学問をいかに社会で活用させるかという論点等、様々なことを学びました。特に石川裕一フェローには大変お世話になりました。個人的には、新渡戸カレッジにおける留学生との交流は、コロナ禍で留学が出来なかったこともあり、強く記憶に残っています。

【公共政策大学院へ】

法学部で法律を学ぶ中で、法律策定過程に関心を持った私は、法律や政策については分野横断的に学ぶことが必要であると感じました。

このため、法学部を2022年に早期卒業し、「文理融合」に特徴がある北大の公共政策大学院に進学しました。

大学院では、国際政治や防災等を幅広く学び、災害時の避難制度等の在り方に関する研究を行い、論文にまとめました。また、津別町をフィールドに地方創生に取り組む、大学院公認学生団体「地方創生団体HALCC」に所属し、他のメンバーとともに「地方創生☆政策アイデアコンテスト2023」に応募して北海道経済産業局長賞を受賞することができました。

【職業人としての目線】

2024年に公共政策大学院を修了し職業人となりましたが、学生時代のものの見方から変わったと感じる点が二つあります。

一つは、価値を提供する側である生産者に目線が変わったことです。

学生はあくまでも消費をする立場として社会の枠組みの中にありますが、職業人は社会に対して新しい何かを常に生産しなければならない立場にあります。その立場を全うするためには、今まで学んできたことを礎にしつつ、さらに深く考え続けることが求められます。

仕事に邁進することで精いっぱいな日々の中で、職業人をしながら私を支え続けてくれた両親に対して改めて大きな感謝を抱いています。

二つ目は、責任の在り方です。

学生は良くも悪くも自分次第の面があり、決断に伴う結果の責任が自分限りであることがほとんどですが、職業人となると、自分の行為の責任は、その所属する組織等にまで波及します。

どのような行動が所属する組織として正しいのかを常に考えながら、その責任について説明のできる行動をとるよう、日々心掛けています。

【北大での学びを今後に】

職業人となった今、学生時代に得た自ら学ぶ姿勢や自分で考える力の重要性を痛感しています。

北大生時代に、職業人として生き抜く基礎を造り上げることができたことは、自分にとって最大の財産だと実感しています。

今後も自ら学び、自ら考える姿勢を大切にして、価値あるものを生み出せるよう、精進していきたいと思います。

弁護士法人小寺・松田法律事務所
弁護士　小寺　正史
（昭和50卒26期）
〒060-0062 札幌市中央区大通西十丁目 南大通ビル六階
電話（〇一一）二八一－五〇一一
FAX（〇一一）二八一－五〇六〇

黒川法律事務所
弁護士　黒川　貢
（平成13年卒52期）
〒060-0062 札幌市中央区大通西十三丁目四 レジディア大通公園二階
電話（〇一一）二九九－一三〇八
FAX（〇一一）二九九－一三〇九

同窓生所感

思いは「半分、青い」

小野垣　親士
1978（昭和53）年卒業（第29期）



【はじめに】

1978年に法学部を卒業し、北海道放送（HBC）に入社して、主にテレビの報道に関わる仕事をしてきました。

2020年に関連プロダクションを退職後、佐々木亮子元法学部同窓会長に誘われて「カルチャーナイト倶楽部」の活動に参画しました。

以下は、倶楽部で行った卓話の抄録に加筆したものです。

【HBC】

北海道放送㈱は、1951年に設立され、翌年からラジオ放送を開始。1957年には前年に手稲山山頂に設置した送信所から本格的にテレビ放送を始めました。1967年にはカラー化を完成し、2011年、アナログ放送からデジタル放送への転換を経て今に至っています。

【テレポート6】

1975年2月から、北海道におけるローカルワイドニュースの先駆けとなる「テレポート6」が夕方6時にスタートしました。当時この時間帯のテレビはアニメが主流で、私自身、入社面接で「その時間は『宇宙戦艦ヤマト』を見ていました」と言ったのを覚えています。

そんな私がこの番組に深く関わります。現場は毎日、放送を間に合わせるのに火の車でした。

物置小屋のようなスタジオから、30分のニュース番組を、フィルム映像で、写植の字幕を用いて放送。FAXはなく、カーボン紙を使って原稿を二部作っていました。

「先駆け」なるものは周囲にモデルがなく自ら切り開いて先に進まなくてはなりません。当然失敗も多いのですが、他所と比べられることはなく、視聴率は頑張っていれば伴うとシンプルに思えた時代でした。

【東京勤務】

1984年、国鉄の分割民営化や外交が絡む北洋漁業など国の政策と直結したニュースが多くなるなか、東京支社勤務となりました。

北海道と関係の深いソ連はペレストロイカの時代を迎えており、ゴルバチョフ書記長の片腕ともいえるシュワルナゼ外相の来日の際は記者たちも興奮気味でした。今日とは違う未来予想図がそこにはありました。

隔世の感ありと言えば…

今でこそ道産米は美味しく全国的にも人気ですが、当時はまずいコメの代表格であり、スズメも食べない「スズメ跨ぎ」と揶揄されておりました。ある日、北海道の農業団体が「ゆきひかり」のPRを農水省で行い、農水記者クラブで各社に試供品を配ったのですが、皆さんHBCの机の上に置いて帰り、山と積まさっていました。「小野垣さんは北海道だから食べるでしょ」と。

2025年版の米騒動を経験した今、あらためて思い出します。

【中南米特派員】

1987年からJNN中南米特派員としてブラジルのサンパウロに駐在しました。

ブラジルはポルトガル語で、それなりに勉強して赴任しましたが、ブラジル以外はスペイン語なので取材では苦労しました。救いは、コンビを組んでいた現地の日系二世の助手がスペイン語にも通じていたこと。ただし、彼は英語に関しては全くだめで、Do you speak English? と取材先に切り返されると、そこから孤独な闘いが始まるのでした。

ブラジル人は人柄がとても良いのですが貧富の差が激しく治安は悪かったので、用心と運が必要でした。

カーニバルパレードの打楽器隊長への密着取材では、肝心の本番当日に「主役」がおらず、聞けば仲間に誘われて工場に盗みに入り警備員に射殺されたとのこと。取材も失敗に終わりました。

【キャスターへ】

ブラジル駐在から帰国後、「ほっとないとHOKKAIDO」担当を経て、1996年から約2年間、「テレポート6」で、キャスターを務めました。

出だしや締めを任せてもらい、やりがいはありましたが、失敗も多く今でもときどき夢にうなされます。

一番厳しい視聴者は元アナウンサーの妻。その叱咤に感謝しています。

【半分、青い】

2018年のNHK連続テレビ小説「半分、青い」は七転び八起きのヒロインの波乱の物語ですが、ドラマの紹介に「失敗って楽しい。今日とは違う明日が、きっと見つかるから…」とあります。

私自身「半分、青い」まま試行錯誤を続けた日々でした。

楽しめたかどうかは別にしまして。

限りある命を次世代のために

健康・環境デザイン研究所
所長　中村　恵子
平成6年大学院法学研究科修了



【はじめに】

私の著作や会員名簿広告を目にされた同窓会猪飼事務局長からお声をかけて頂き、原稿を掲載する誉れに感謝申し上げます。

【持続可能な循環型社会を！】

公害国会があった昭和45年、私は札幌北高校一年で、学校祭クラス仮装行列のテーマは「これが公害だ！」だった。

この危機感が大学で環境問題を学ぶ動機となり、昭和63年夫が伊達赤十字病院整形外科部長として赴任した伊達市で「ごみ有料化問題」が起きた時、総合的な環境問題であるごみ問題に取組むことにつながる。

平成元年、廃棄物減量・資源化・適正処理を通し天然資源の節約と環境負荷低減を図る持続可能な循環型社会構築に寄与しようと行動を始めた。

【通産大臣賞受賞】

結成した市民グループで、ごみ減量・資源化シンポジウム等を開催し、住民の声を集約し行政へ政策提言をしたり、平成2年、全国に先駆け、市内全スーパーにトレー回収箱設置等の働きかけは、平成7年度国内地球環境保全活動方策の代表事例に選ばれた。

同時に、居住自治会に私が提案した資源回収業者と住民と行政と協働の資源回収は、住民は資源を出せば出すほど収益で指定有料ごみ袋をもらえる方法で、低コストでごみ減量・資源化の動機付け可能と当時の総理府広報映画になる。

これらの活動に対し平成7年度リサイクル推進功労者等表彰で通産大臣賞を受賞した。

【北大大学院法学研究科へ】

一方で「ごみ有料化」政策住民意識調査結果を、平成3年「ごみ処理有料化の波及効果」として（一社）廃棄物資源循環学会（当時は廃棄物学会）で発表。平成4年から大学院法学研究科修士課程で、畠山武道先生のご指導を頂き「ごみ問題と経済的手法」を論文にまとめた。北大でのご指導は私の一生の宝物である。

編著『これでいいのかごみ行政』も上梓。同学会で『災害廃棄物処理・分別実務マニュアル』の共同執筆者や理事、廃棄物計画研究部会長を務め現在はフェロー。

【環境省推奨政策の実現】

「ごみ有料化」とは「指定袋式ごみ従量制有料化」のことだ。ごみの排出量に応じ有料ごみ袋代がかかる環境課徴金の意義をもち循環型社会形成の基本政策になると考え、その趣旨を平成2年6月読売新聞「論点」に寄稿。直後に自民党政務調査会に招かれその方法を説明。翌年には当時の環境庁担当者が伊達市を訪れヒアリングを受けた。その後全国的関心に応じ学会誌などに執筆。現在「ごみ有料化」は環境省推奨政策となり、北海道１００％全国70％の自治体が実施済みである。

【地域医療を支える】

他方、夫は平成5年に伊達市でクリニックを開業し、地方における近代整形外科確立の夢を果たすべく北大整形外科医局関係者と連携し、地元で最新の治療・手術を受けられる体制を整えた。私は人事・労務・給与・財務を担い、職場の環境保全、職員の健康保全の方針で出産・子育て、ワークライフバランス重視で、働くことが誇りになるクリニックをめざした。開院30周年を迎えた年、無事、次世代に承継し、地域の人々から安心したとの声を頂いている。

【『江戸幕府の北方防衛』を出版】

地元の蝦夷三官寺「有珠善光寺」や「白老仙台藩元陣屋」など江戸時代の北方防衛史跡の意義を知らない日本人に愕然とし、昨今のロシアの動きとともに警鐘をならすべく、北海道内の史跡の点と点を結び体系的に江戸時代の蝦夷地を統治した江戸幕府と松前藩、東北６藩の北方防衛を著した『**江戸幕府の北方防衛**』（ハート出版）を令和４年出版。アパ日本再興大賞優秀賞を受賞し4刷りである。

令和７年には、江戸幕府と松前藩を支えた近江商人、北前船商人、場所請負人の事績を出身地にも取材し多角的にとらえた『**北方防衛と開拓の魁**』（同）を出版した。ライフワークの「ネクストワン」として「次世代のために日本を守る」をテーマに過ごす日々である。





みらい共同法律事務所
弁護士　川村　明伸
（平成9年卒48期）
〒060-0061 札幌市中央区南一条西十丁目
第一タイムビル九階
電　話（〇一一）二〇六－九九一一
ＦＡＸ（〇一一）二〇六－九九一三

海外だより

海外駐在の「あしあと」

菅原　正幸
1988年卒（第39期）



私は、法学部では中村睦男先生のゼミで憲法を学び、卒業後は都銀に勤めました。

今現在、金融再編で生じたメガバンクに勤務しており勤続39年となりましたが、その三分の一を海外で過ごしました。30代は米国のロサンゼルスに7年、50代はタイのバンコックに2年と中国の上海に4年、延べ13年の海外勤務になります。

【ロサンゼルス】

ロスは野球の野茂投手がドジャースに入団したのと同じタイミング（95年）で赴任しましたが、今から思えば人々は皆明るく豊かで、いい時代でした。カリフォルニアの輝く太陽と爽やかな風が懐かしく思い出されます。仕事面では、当時、ワープロからパソコンの時代になり、徐々に世界がインターネットで繋がり始めた時代でしたので、赴任して最初にやった仕事は、銀行に一斉にパソコンを導入し、当時ＬＡＮと呼ばれたネットワークで繋ぐことでした。東京の本部とは未だＦＡＸでやり取りしていた時代ですから、企画から予算取り迄、随分と苦労しましたが、北大時代に育まれたネバーギブアップ魂で無事やり遂げることができました。今年は縁あって久し振りに米国西海岸へ出張してきました。日本のＩＲプロジェクト（カジノ＆国際会議場のリゾート一体開発）に関係するカジノ・オペレーターやＩＲ事業者と面談してきましたが、やはり米国のダイナミックなビジネスの有りようは変わっておらず、インスパイアされて戻ってきました。



【バンコック】

微笑みの国タイは、親日的で日本人にとって生活し易い国でしたが、私が駐在した最初の1年は、丁度プミポン国王がご逝去された直後でしたので、国民全体が黒を中心としたダークカラーに身を包んでおりました。私も毎日、黒のスーツとネクタイで出勤していました。ただ面白いことに、喪が明けたとたん一気にカラフルな服装に戻り、世界がパーッと明るくなったのをよく覚えています。後半の1年は本来の明るいタイライフを満喫しました。

【上海】

その後そのまま中国に横スライドしました。4年の内、後半の3年はコロナでしたが、コロナ発祥の武漢にも支店を持っていましたので、対応に追われました。中国はゼロコロナ政策を取っていた為、上海で5名ほど感染者がでたところで、2か月に及ぶ都市封鎖が始まりました。部屋から一歩も出られない中、封鎖が始まって1週間を過ぎた頃から食料の在庫が尽きかけて、かなり焦りました（汗）。最後の一個となった卵を目玉焼きにして食べた時は、皿まで舐めました（涙）。その後無事、政府配給でゴミ袋に詰められた野菜と一羽の鶏が届けられ一息つきました。生まれて初めて自分で鶏を捌きました。食べ物への感謝、普段料理してくれる人への感謝、生きていることへの感謝…いい経験となりました。



【中国のテクノロジー】

中国の普通の生活にも少し触れます。基本キャシュレスで普段財布を持ちません。出前も買い物もタクシーも、ＰＣＲ検査や非感染証明まで、生活のほぼ全てが携帯上のアプリです。街中に監視カメラが張り巡らされていますので、治安という意味ではある意味安全です。テクノロジーの発展スピードは凄まじく、大変ダイナミックな国だと思います。人口も経済規模もあらゆるモノが日本の10倍です。日中比較をするときは、大体において10倍か1／10にすれば感覚が掴めます。

【オープン・マインド】

こうして振り返ってみますと、（内地ではない）北海道で生まれ育ったせいなのか、随分と海外生活に馴染んでいた様に思います。広い世界で様々な文化と歴史的背景を持った人達とオープン・マインドで触れ合うことが出来た幸せを、今つくづく感じます。こうした経験を活かし、日本の未来のために、これからも力を尽くしていきたいと思っております。

少年よ　大志を抱け！

追悼



飄々とした厳格さ

林竣先生は、昭和45年に北海道大学法学部を卒業された後、北海道大学大学院法学研究科に進学されました。昭和48年3月に修士課程を修了された後の、昭和48年4月に北海道大学法学部助手に採用され、昭和52年10月に北海道大学法学部助教授に昇任された。それ以来、北海道大学法学部教授等を経て、平成24年3月に退職されるまで、長きにわたって、北大で教えてこられました。北大出身でそのまま北大で教えられるという、まさに北大一筋です。その林先生は令和7年2月にご逝去されました。

わたしは、平成6年に北大に赴任して以来、同じ商法のスタッフとして林先生とご一緒させていただきました。林先生からは、民事法研究会などで、一方的に勝手に教えを受けていましたが、残念ながら先生の授業や演習でのご様子などはあまり知りません。ただ、長く同じ科目の教員としてご一緒させていただいたということで、いくつか思い出のようなものを書かせていただければと思います。

ということで、わたしにとっては、林先生といえば、思い出されるのは、民事法研究会等での議論なのですが、とにかく民事法をはじめとする法律に詳しい。商法専攻なので「民法はよく分かりません」というのはわたしはよくいいたくなることなのですが、林先生にそれを真面目にいうと怒られるのではないかと思います。また、先生の御議論を一言でいえば、実定法体系、理論枠組みに即した精緻な法解釈ということになるかと思います。

たとえば、他人に自己の名前で営業することを許可した者(A)は、名前を借りた他人(B)が営業上、取引相手(C)に対して負った債務につき、Cが、自分の相手はAではなく、Bであることを知らなかった場合に、Cに対して責任を負うという名板貸人の責任というものがあります。研究会で、スーパーのテナントの取引相手に対する債務につき、スーパーが名板貸人の責任を負うかが問題になった判例がとりあげられたことがあります。スーパーは名前を使用することを許諾していたわけではないですが、スーパーの客からすれば、テナントがスーパーとは別の店であるとは分からないということで、名板貸人の責任の類推適用が問題になりました。ただ、実質的には、テナントに出店させているスーパーがそこで営業しているテナントの行為について責任を負うべきかという問題で、そういうことについての法律の定めはないから、使えそうな名板貸しの責任が持ち出されたというところがあり、そこで林先生のいった一言が、「定期傭船みたいなものと考えるとかね…」というものでした。

わたしにとっては、ここで定期傭船をもってきますか先生という一言で、そんなことよく思いつきますね！という感じでした。定期傭船というのは、船舶の所有者が船を他人に利用させるというものですが、どちらが企業主体なのかというようなことが論じられていました。一見まったく違う局面ですが、本質的に類似であるところを見抜き、その枠組みを使って問題の解決をはかるという林先生らしい一言でした。

また、現在K大学の教授のM先生の博士論文の審査委員を一緒にしたのですが、面接の内容につき、後に、M先生が一番覚えているのは林先生の一言だといっていました。実は、その一言はわたしもよく覚えています。M先生の博士論文は、取締役の内部統制システム構築義務に関するものだったのですが、林先生の一言は、「それは履行請求できるんですか」、というものでした。M先生がどう返したのかは覚えていませんが。内部統制システム構築義務といっているけれども取締役の委任契約上の債務といえるのかということで、林先生ならではの一言だと思います。

また、林先生は司法試験受験生の指導も熱心にされていました。旧司法試験の時代から学生相手に熱心に指導されていたようです。その指導は非常に厳しいものだったようで、F教授が、「あれに耐えられた者だけが合格できる」といっていたのを覚えています。また、法科大学院での授業も、厳しいものだったという話を学生から聞いたことがあります。その反面、よくできる学生には、「何で授業に出てるの」というようなこともいわれたようで、よき時代の熱心な先生といえるように思います。

林先生は一見飄々とされていて、何かにつけ、「いいんじゃない」といってくれるような感じのところがありましたが、根っこのところは非常に厳格なところがあったように思います。学問にも非常に真摯で、厳格で、学説がいろいろ議論していることでも、林先生からみて重要ではないところについては、まあそれでもいいんじゃないという感じでしたが、大事なところについては非常に厳格であったように思います(研究科長にふさわしいのは誰かという話で、ある先生が「大乱世なら林先生」といっていたことがありました)。学生に対する指導にもそのようなところが表れていたように思います。厳しく、かつ鷹揚でもあり、学生の指導にも熱心であった林先生、どうか安らかにお眠りください。

山本哲生
北海道大学法学部教授

―事務局報告― 第5回「北海道大学法学部同窓会賞授賞式」の開催

第5回「北海道大学法学部同窓会賞授賞式」は2026年3月25日（水）13時30分より北大法学部棟2階小会議室において快晴の下、挙行されました。

藤田美津夫同窓会長から「同窓会賞は、在学生支援の一環として、学業又は課外活動で顕著な成績、実績などを収めた在学生、在学生サークル等団体を表彰するもので、2021年度から行われ、本年で5回目となります。

受賞者の選考は、法学研究科長・法学部長に依頼し、法学部内の審議・調整等を経た選考結果を踏まえて決定しております。

今年は、個人の部では、本日午前に学位授式を終えた、谷川朱李さんと森寛徳さん。団体の部では、ジェサップ国際法模擬裁判大会で活躍している「北大国際法・国際関係研究会」が選定されました。

受賞された皆様、まことにおめでとうございます。皆様の更なるご活躍、ご健勝を祈念しての挨拶としたします。」と祝辞並びに表彰者の紹介を兼ねた挨拶がありました。

引き続き同窓会長より受賞者に表彰状と副賞が授与され、ご多忙の中ご臨席いただいた佐々木雅寿法学研究科長・法学部長から、受賞者への花向けと激励のご祝辞とともに、同窓会賞が学生にとって勉学への大きな励みとなっていますとのお言葉を頂きました。

個人賞を受賞した谷川朱李さんと森寛徳さんは、いずれも国家公務員に、団体賞受賞の金野泰河さんは民間の建設会社へ就職、辻川哲平さんは大学院へ進学と、北大法学部を卒業し、同窓会賞受賞を誇りとして、それぞれの進路に進む期待と抱負が述べられました。

北大国際法・国際関係研究会顧問の児矢野マリ教授も参加いただき、最後に記念の写真を撮影しました。

若き才媛と俊英の姿から感動とエネルギーを頂けた授賞式でした。

＊北大国際法・国際関係研究会の活動は25頁に記載しています。

藤田・荒木・村本法律事務所
弁護士 村本 耕大
（平成19年学部卒、平成21年北大LS卒）
〒060－0062 札幌市中央区南二条西十丁目一番地四
第二サントービル四階
電話（〇一一）二七一－六〇四六
FAX（〇一一）二七一－六〇四七



団体などの活動

国際研の活動

【北海道大学法学部同窓会賞】

第5回北海道大学法学部同窓会賞の団体賞を受賞した「北大国際法・国際関係研究会」（略称：国際研）は、児矢野マリ教授と開出雄介准教授を顧問に、法学部生を中心として、活動しています。参加する学生の多くは、新渡戸カレッジ生や留学経験者でもあり、国際的な視点から勉強会の開催やジェサップ・ムートへの挑戦を行っています。

【ジェサップ国際法模擬裁判大会】

ジェサップ・ムートのウエブサイトによりますと、ジェサップ国際法模擬裁判大会は、国際司法裁判所判事の名を冠して、1960年にアメリカで始まった、世界80ヶ国、五百を超えるロースクール・大学が参加する国際法模擬裁判大会です。

英語で設定された仮想の国家間紛争について、参加者が原告・被告のそれぞれの立場から準備書面（英語）を予め作成し、それに基づく口頭弁論（英語）を、裁判官役を務める法律家（実務法曹・研究者・外交官）の面前で行います。

毎年2月に京都で行われる国内大会上位校が、4月にワシントンで行われる国際大会に出場します。

【北大の参加】

北大は2016年から挑戦を開始し、2017年2月の国内大会では、初出場にもかかわらず、総合準優勝、書面準優勝、優秀弁論賞を受賞しました。

「北大旋風」を巻き起こした成果を踏まえ、同年10月に国際研を正式に設立しました。

【更なる研鑽・活躍】

コロナ禍の影響で活動が制限される期間を乗り越え、毎週のように勉強会を重ねました。北大が、2022年の国内大会で、書面部門の原告と被告にて1位になったとき、その中心メンバーは国際研の会員でした。また、同大会で国際研の会員が優秀弁論者賞を受賞することもできました。

2023年には他大学や高校からも学生を招き模擬国連を開催し、2026年3月には十年に及ぶ活動の「実績報告書」を作成しました。

学生の時点で、国際法はもとより国際関係に視点を開く取り組みの意義は大きく、入賞の有無に拘らず、継続した参加を目指しての研鑽と活躍が期待されます。



全国同窓会2,000校の実績
同窓会アドバイザー
プライバシーマーク認定企業

SALAT
株式会社 サラト

たいせつにします プライバシー
20000142(12)

■本　　社　〒670-0948
兵庫県姫路市北条宮の町172
TEL 079-284-1380

■東京支社　〒110-0016
東京都台東区台東4-18-7
シモジンビル5F
TEL 03-3832-6381

https://salat.co.jp

NORTH PAPIER あなたに出会うために。

ノースパピエは自由に発想をひろげ
「あなた」と向きあいたい
そんな想いを集めたプロジェクト
お気に入りが見つかりますように

出発!

Produced by SUDA SEIHAN

ノースパピエ
northpapier.com

Online Shop　NORTH PAPIER　Instagram

誌上「金葉祭」&「北大祭」

【北大金葉祭】

いちょう並木の美しさをより多くの人に届ける、「北大金葉祭」は運営・企画を北大生が行い、２０１２年から開催されています。

２０２５年は11月１日（土）～２日（日）、70本の「いちょう」並木が金色のトンネルとなり、昼は太陽光に照らされる輝きと、夜はライトアップにした幻想的な世界が展開されました。

土日は休業する中央食堂も、この期間は臨時営業しておりました。

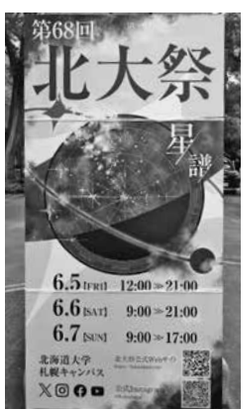

いちょう並木



看板

【第68回北大祭】

２０２６年６月５日（金）～７日（日）の３日間、「星譜」をテーマに開催された北大祭は、道内テレビのニュース番組でも放映され、期間中約十二万一千人がキャンパスを訪れました。



北大祭看板

北大祭は10の各祭によって構成され、そのうちの一つである文系祭は人文科学総合研究棟の教室などで、講演や展示が行われました。



文系祭パンフ


混雑の様子

音楽サークルやバンドの演奏、アイドルグループやチアリーダーの演技も人気を集めておりました。


チアリーディング

【模擬店】

メインストリートには、模擬店がズラリと並び、焼きそばやたこ焼きなどお祭りらしい飲食物の提供がメインでしたが、体育会洋弓部の射的や、各地で出没・被害が報道されたヒグマの「毛皮」に触れられる体験型や、上川高校の「さけから伯爵」、津別町の「クマヤキ」など道内の高校や市町等との地域連携型も人気を集めておりました。

「クラークの窯」や「じゃがいもよバターを抱け」と北大らしいネーミングの店もありました。



地域連携



射的

【国際フードフェスティバル】

留学生によるアフリカ諸国や、バングラデシュ、インドネシア、フィリピンなど各国の伝統料理を実演して味わえる国際屋台のイベントは法学部の西側で開催されました。

スリランカの「パラタチカレー」やパキスタンの「無水カレー」など、各店でも行列ができる人気でした。


行列



スリランカ店

◆◆同窓会からのお知らせ◆◆

●２０２６年度法学部同窓会定時総会は９月26日（土）午前10時30分から法学部研究棟３階「センター会議室」で開催致します。

当日は午後から北海道大学創基１５０周年記念式典及び記念イベントが別掲の通り開催されます。

このため、例年総会後に開催しておりました法学部同窓会主催のシンポジュウム（講演会）や懇親会は開催致しません。

定時総会にご出席を希望される方は９月11日（金）までに事務局にＥメールなどで連絡をお願いします。

●毎年「ホームカミングデー」当日に開催しておりました文系４学部・同同窓会共催の「公開フォーラム（講演会）」は、今年は「ホームカミングデー」が行われないため開催致しません。

２０２７年の「ホームカミングデー」においては文系４学部・同同窓会の企画・運営が法学部・同同窓会の当番になり、公開講演会（シンポジュウム）の開催を目指し検討を進めます。

●北海道大学創基１５０周年記念事業

○会場：札幌文化芸術劇場ｈｉｔａｒｕ（札幌市中央区北１条西１丁目札幌市民交流プラザ）

【創基１５０周年記念式典】

日時：９月26日（土）
１３：００～１４：１５

参加：要申込

【創基１５０周年記念プログラム】

日時：９月26日（土）
１４：３５～１７：００

内容：トークイベント

参加：要申込

【創基１５０周年記念コンサート】

日時：９月27日（日）
１３：００～１４：３０

出演：北海道大学交響楽団

参加：要申込・全席入場無料

【サイエンスフェスタ】

日時：９月26日（土）
１０：００～１８：３０
９月27日（日）
１０：００～１７：００

【パネル展「北海道大学　未来をつくる学びと研究ーＨＵＶＩＳＩＯＮ」】

日時：９月26日（土）
１０：００～１８：３０
９月27日（日）
１０：００～１７：００

○会場：京王プラザホテル札幌（札幌市中央区北５条西７丁目）

【記念祝賀会】

日時：９月26日（土）
１８：００～

参加：要申込

○会場：札幌文化芸術交流センターＳＣＡＲＴＳ（札幌市中央区北１条西１丁目札幌市民交流プラザ）

【北大リサーチフェスティバル】

日時：９月26日（土）
１０：００～１１：３０
９月27日（日）
１０：００～１７：００

参加：要申込

【記念写真展「キャンパスと学生の記憶」】・【北のマルシェ】

日時：９月26日（土）
１０：００～１８：３０
９月27日（日）
１０：００～１７：００

【校友会エルム・基礎同窓会活動展「つなぐ想い、広がる挑戦」】

日時：９月26日（土）
１０：００～１８：３０
９月27日（日）
１０：００～１７：００

○会場：学術交流会館（札幌市北区北８条西５丁目）

【国際プログラム】

日時：９月27日（日）
１０：００～１１：４０

●同窓会員の変更の連絡

氏名、住所、電話番号、勤務先等の変更が生じた場合、速やかにＥメールで連絡をお願いします。

在学同窓会員の皆様の父母等保証人様の住所変更の場合も連絡願います。

●会報「楡苑」への掲載原稿を募集します。

同窓会会報にふさわしいものであれば、内容は問いません。事務局にお問い合わせください。

●会報に掲載する企業・各種団体の広告及び名刺広告を募集します。会報は同窓会費及び広告掲載料により発行・配付しております。広告掲載による特段のご協力とご支援を宜しくお願い致します。詳しくは事務局にお問い合わせください。

＊ＴＥＬ／ＦＡＸ、Ｅメールアドレスは最終頁に記載しています。

2025年度収支決算報告書

自　2025年7月　1日
至　2026年6月30日

（収入の部）　（単位　円）

項目	金額 予算	決算	増減	備考
会費収入	2,900,000	3,671,000	771,000	旧終身会費 50,000×12名 旧終身会費分納 10,000×6名 旧終身会費分納 4,000×2名 旧年会費 3,000×161名 新会費 20,000×126名
広告収入	350,000	325,000	▽25,000	会報第41号広告掲載料
雑収入	100,000	124,352	24,352	同窓会員懇親会会費、銀行預金利息等
合計	3,350,000	4,120,352	770,352	

（支出の部）　（単位　円）

項目	金額 予算	決算	増減	備考
事務費	70,000	69,885	▽115	封筒・コピー用紙・糊・インクカートリッジ等
会議費	230,000	197,833	▽32,167	総会、役員会、同窓会員懇親会経費等
印刷費	580,000	580,000	0	会報「楡苑」第41号印刷製本費
交通通信費	1,260,000	1,255,001	▽4,999	会報送料、同窓会発文書郵送料等
助成金	175,000	172,968	▽2,032	同窓会賞、ゴルフ大会、北大祭、記念式典広告
謝金	75,000	26,021	▽48,979	同窓会賞賞状筆耕等
人件費	900,000	900,000	0	事務局給与（交通費）
雑費	60,000	50,190	▽9,810	郵便振替手数料、銀行振込手数料
合計	3,350,000	3,251,898	▽98,102	

単年度収支差　収入4,120,352円－支出3,251,898円＝868,454円
次年度繰越金　前年度繰越金　¥16,296,537
今年度収支差　¥868,454
翌年度繰越額　¥17,164,991
繰越金内訳
預貯金　¥17,164,991
現金　¥0

同窓会費納入のお願い

同窓会の運営基盤を強固にし、同窓会の役割を積極的に果たしていくためにも、皆様の会費が財源として是非必要でございます。

会員の皆様には一層のご理解を頂き、会費納入に特段のご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

1　会費

①　２０１７年（平成29年）３月以降に卒業（修了）された方及び現法学部等在学生の皆様
終身会費　２０，０００円

②　２０１７年より前に卒業（修了）された会員の皆様
年会費　３，０００円
終身会費　５０，０００円（５回まで分納可能）

＊旧会費適用になる方と新会費適用になる方との間には、実質公平性が確保されておりますことをご理解下さい。

2　振込方法

①　郵便局振込
同封の「払込取扱票」をご利用ください。
振込手数料は同窓会負担です。

②　銀行振込
「北海道大学法学部同窓会」名義の次の銀行口座への振込みも可能です。振込手数料は皆様のご負担となります。
北洋銀行本店営業部　普通預金1365501
北海道銀行札幌駅北口支店　普通預金0458323
ゆうちょ銀９０８店　通常預金0570608

3　その他
既に終身会費を納入済の方には、振込が不要ですので、「振込取扱票」を同封しておりません。

北大法学部同窓会報　楡苑第42号編集員会

林　誠司（47期・編集委員長）　猪飼　秀一（28期）
石川　裕一（30期）　成田　祥介（34期）
山崎　幹根（41期）　大西　岳（53期）

編集後記

林誠司先生を新たな編集委員長にお迎えし、前編集委員長の山崎幹根先生のご協力も頂き、楡苑第42号の発行に至ることが出来ました。

編集委員会の皆様、原稿作成や情報提供、広告掲載にご協力を頂いた全ての皆様に感謝と御礼を申し上げます。

北海道大学が創基１５０周年を迎える本年は、校友会エルムの国内地区同窓会で活躍されている法学部卒業の方々などに登場頂きました。

東京ジンパでは校友会エルムの真弓会長から、広い分野で活躍する法学部同窓生へのエールも頂きましたが、今号でも国際弁護、放送、金融、地域研究などに関係する方々の原稿を掲載できました。

これからも同窓会員や関係する皆様からの原稿作成や資料提供、ご支援へのご理解ご協力を頂き、編集に努めて参りますのでよろしくお願い致します

（法学部同窓会事務局長　猪飼秀一）

発行／北海道大学法学部同窓会
住所／〒０６０－０８０９
北海道札幌市北区北９条西７丁目
北海道大学法学部内
TEL・FAX／０１１－７０６－３９４１
メール／dosokai@juris.hokudai.ac.jp
印刷／㈱須田製版